

令和 5 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 共生型グループホーム 白山の里

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391400041		
法人名	特定非営利活動法人 里つむぎ八幡平		
事業所名	共生型グループホーム 白山の里		
所在地	〒028-7112岩手県八幡平市田頭12-18-1		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和5年12月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

盛岡市にあるみんなのクリニックの齋藤院長のご協力を頂いております。グループホームの利用者様のほとんどがかりつけ医として診て頂き、受診は勿論ですが電話での相談も対応して頂きとても心強いです。また、夜間帯や急変時の対応もスムーズに行われており看取りができる環境にあると思っております。開所時からの看取った方は11名となっております。

今後は新しい職員も入職していますので技術の底上げが必要だと思っております。また、コロナで地域の皆様との交流が無かった為少しずつ機会を増やしていきたいと思っております。

法人夏祭りを開催し、全法人の利用者様・ご家族は勿論、近隣の方々への参加や地域のボランティア様の参加が開催当初に比べ増加しており、地域に徐々に根差してきているかと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は1階が認知症対応型グループホーム、2階が5人が暮らす障害者共同生活介護の施設である。運営主体であるNPO法人「里・つむぎ八幡平」は小規模多機能ホームや有料老人ホーム、居宅支援事業所等を複合的に運営し、隣接している事業所が相互に協力し合いながら、それぞれの機能を果たしている。理念は、2年前に職員間で検討して実践的な内容に変え、また、勤務時間も職員の意見を聞きながら、働きやすい勤務形態としている。かかりつけ医の協力により、受診だけでなく急変時の対応も得て、現在まで11人の看取りを経験し、職員のみならず家族からも安心感を持って受け止められている。コロナ禍で途絶えていた法人の夏祭を開催したところ、近隣住民やボランティアの参加も沢山あり好評であった。地域と関わり、共に楽しく生きがいを持って過ごせるよう支援に努めている事業所である。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月25日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名：共生型グループホーム 白山の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2年前に代表や職員で一新しました。その理念をリビングに掲示しています。「共生でつむぐ笑顔と安心の里づくり」その理念に近づけるよう日々努力しております。また、毎月の運営会議においても確認しています。	理念は2年前にNPO法人の理念を一新し、代表や職員の話し合いのもとで策定され、ホールの目の届く所に大きく掲示されている。職員は理念とスローガンに近づけるよう、運営会議や日々の業務の中で確認しあいながら、ケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の皆様との交流はコロナで中々出来ない状況でしたが、その中でも、里つむぎ八幡平での敬老会や夏祭り、音楽療法、臨床美術などは行うことができました。また、少しづつボランティアなどで地域の皆様も参加して頂いています。	町内会に加入し、代表が地域の老人クラブと一緒にお墓の清掃に参加するなど、地域と多くの関わりを持っている。今年は5～10月までの第1土曜日にマルシェ(市場)を開催し、野菜やコーヒー店、玉こんにやく、利用者の握った味噌おにぎりなどを出店し、地域の方々から好評を得た。夏祭り、避難訓練時の協力のほか、音楽療法、臨床美術講座の協力をいただくなど、地域との関係も良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人がセミナーを主催し地域の皆様に参加して頂き認知症への理解を深めて頂けるよう努めています。また、施設見学を常に受け入れ認知症に関する相談なども行っています。また、法人では、春から秋まで「すばるマルシェ」を開催しており、地域の皆様・利用者様も参加して交流を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し日々の生活様子や課題を委員の皆様へ伝え、ご意見を頂いています。それらを職員に伝達し日々のケアの向上に努めています。また、今年から警察の方も参加して頂いています。	コロナ禍にあっても2ヶ月毎に参集で開催して、利用者の日々の様子や事業所の現状を報告し、委員から意見等をいただきサービスの向上に努めている。今年から、岩手警察署(沼宮内)の署員も委員になり、これまでにない意見や情報を委員会の中で共有する事ができ、事業所としての取り組みにも活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に健康福祉課や包括支援センター職員が参加しており、相談事業及び介護保険事業に関する相談をさせて頂いています。また、普段から積極的に市役所に出向き、意見交換を行い協力関係や信頼関係を築くようにしています。	市の担当課職員が運営推進会議委員になっている事で、意見や助言をいただきやすい関係にある。家族が遠方に住んでいるため、代理で要介護認定申請の手続きに出向いたり、障がいの方が生活している事で、介護又は障がいのどちらの保険サービスを利用したら良いか等の相談もしている。積極的に窓口に出向くなどして、協力と信頼関係を今後とも築いていけるよう努めている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 共生型グループホーム 白山の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設玄関に身体拘束ゼロ宣言を掲示し、余程の緊急事態以外は身体拘束はしない決意を持って職員一同ケアにあたっています。現在、身体拘束はありません。玄関には、人感センサーチャイムを取付け安全に留意し見守りを強化しています。	身体拘束廃止の指針を作成し、委員会を3ヵ月毎に開催している。メンバーは看護師、各事業所リーダー、ケアマネージャー、代表等で構成されている。法人の勉強会に参加しない職員は、DVDで会議内容を見るなどし、全職員で共有を図っている。DVDの製作は身体拘束だけでなく、他の項目の研修も含めた研修体系づくりに繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の運営会議は勿論、ケース会議等で特に言葉の暴力について何が暴力になるのか等を説明しています。また、法人勉強会でも取り上げており積極的に参加して、ケアの向上、意識向上に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の実施主体である社会福祉協議会の担当者より説明を受け制度への理解を深めています。成年後見制度に関しては対象者が1名おり市役所の担当者より説明を受け手続きを行っています。分からない事等は、関係機関に相談できるので支援ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人及びご家族様の不安や疑問点を理解し、納得・安心した上でご利用ができる様に努めています。また、法改正等があった場合にはその都度連絡をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から意見・要望があった場合には速やかに会議を開催し対応しています。意見箱の設置により要望・意見を発しやすくなるよう対応しています。	利用者の日々の様子をSNSで発信すると共に、毎月発行している「白山かわらばん」を配布した時や、利用料を納めに来所した時、電話等で利用者の様子を伝えた時などに伺うようにしている。家族からは感謝の言葉も多く、職員は利用者の写真を撮る際には、いつも同じ衣服を着てカメラに収まる事のないよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の運営会議やケース会議だけでなく、日々の職員間の自由意見を聴取するようにコミュニケーションを重視しています。	日々の業務の中や朝の申し送り、運営会議で意見や提案を聞いている。把握した意見等はスタッフで話し合い運営に反映させている。管理者と職員間のコミュニケーションも確保され、私的な相談は管理者と二人になった時に聞いている。個人面談は、法人として事務長中心に行っている。夜勤は、職員の意見を反映し現在の勤務時間に改められている。	

事業所名 : 共生型グループホーム 白山の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の経験や資格取得、日々の仕事への取り組み状況を勘定し給与へ反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質及び経験に沿った研修を紹介し推奨するとともに費用を一部負担し、出来るだけ研修の機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為交流会や研修等は難しい状況でした。しかし、今後は増えて行くと思っています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前を情報を元に、生活歴や性格を大まかに把握しご本人に沿ったサービス計画を立てる様にしています。また、日頃のケアの中で利用者様の訴えを傾聴し、職員間で共有できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には複数回の面会や電話で連絡を取ったして、ご家族様の不安や疑問にお答えして、信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期説明の際には、自施設で出来る事・できない事を明確に伝えながら、自助努力の枠を広げる可能性についても説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の残存機能を生かすために一人一人の生活支援のお手伝いを取り入れています。モップ掛け・洗濯たたみ・野菜の皮むき・食器拭き・花の水やりなどです。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 共生型グループホーム 白山の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人・ご家族の意向を大切に、両者に相違がある場合は根気強く調整し双方の意見が調和されるような関係性の構築に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	天気の良い日は、ドライブや近隣の散策に出掛けて気分転換をしています。また、コロナでもご家族様には面会をして頂いています。但し、どちらもマスクの着用や時間の制限を設けました。	コロナ禍であっても、時間制限と感染予防に努めながら家族の面会を継続している。傾聴ボランティアの訪問が再開し、小学校4年生が学習の一環で来所し利用者と触れ合ったりしている。保健医療大学生等、見学に訪れる方も多い。馴染みの理容師に加え、利用者の姪が2カ月に1回面会に訪れ、整髪をしてくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個々の性格や相性・認知能力などを把握し、協力し合えるような関係性の構築に努めています。また、共生型ということもあり、障がいの利用者様とのかかわりも大切にしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があった場合にはその内容に沿ったアドバイスや支援を心掛けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の日常の言動や表情を観察し、その方の意向・希望を把握することや生活歴やご家族などの情報を職員間で共有しています。また、未来日記のインタビュー等を行うことでその方をもっと知ることができ、ケアに活用してします。	入居前のアセスメントを基に、意向や希望、思いの把握に努め職員間で共有している。インタビュー形式で14のカテゴリーに合わせながら聞く「未来日記」を活用し、ケアに役立てている。得た情報は職員間で共有し介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様とのコミュニケーションを密にとる事により、利用者様の人生背景等を把握することに努め、その過程で信頼関係の構築に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、生活日誌を記録し日々の状態観察に努めています。職員間でその都度話し合い、記録方法の統一化に努めています。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 共生型グループホーム 白山の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様、かかりつけ医の意見を重視し作成しています。ご家族の来所時にはケアサービスの在り方等を説明し現状に即した計画作成を行っています。	入居の際には、1か月の暫定プランを作成し、様子を見なが3か月毎に見直している。プラン作成時には、職員全員参加のケース会議でモニタリングの結果を話し合い、医師の意見も取り入れながら、計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。利用者6人の家族へは、電話で伝え郵送し返送してもらっている。3人の家族には利用料持参時に説明し、承認をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り等全職員が気づきを記入し、必要に応じて午睡時間を利用して話し合いを行いケアの統一に努めています。月1回~2回のケース会議を開催し、重要なケースの話し合いを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様から要望があれば勤務状況を調整し出来るだけ対応するようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為、地域の皆様との交流がなかなか難しい時期がありましたが、最近は行事等には地域のボランティアさんの参加がありました。知り合いに久しぶりに会って喜んでおられました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師には職員より情報提供を行い、適切な医療やアドバイスが受けられるよう連携しています。治療方針やお薬に変更があった場合は速やかにご家族様に連絡をしています。	利用者の8人は協力医であるみんなのクリニックをかかりつけ医とし、1人が八幡平市立病院としている。通院同行は職員が行い、治療や薬の変更があった場合には、速やかに家族に連絡している。協力医は24時間の対応が可能であり、夜勤職員の不安が軽減されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の変化や対応に不安が生じた場合は看護師に相談して適切な医療や処置が行えるようアドバイスを受け支援をしています。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 共生型グループホーム 白山の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には適切な医療が受けられる様に文章、口頭で情報提供を行うとともに、利用者様の様子を把握する為にお見舞いに伺ったりしています。また医療機関、ご家族様ともに連絡を密に取りあって対応していましたが今回は対象者はおりませんでした。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明の際には終末期ケアについても説明させて頂き、法人の方針を伝え同意を得ています。また、看取りが必要になった場合はサービス計画を切り替え、利用者様、ご家族様、職員が一つになってケアが出来るよう医師と連携を図り作成しています。	看取り指針があり、これまで11名の看取り経験をしている。利用者が重篤な状態になった場合の対応を、入居時に家族と協議したところ、事業所での看取り希望は8名で病院への移送は1名が希望している。職員の多くは看取りの経験があり、医療機関と連携して家族の意向に添った対応を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し職員に周知を図っていますが時折再確認を行う事により確実な対応が出来る様に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回、火災2回と水害1回の訓練を行っています。その際には地域の方にも協力を頂き避難経路・移動の技術・段取り等を確認しています。	毎年火災2回、水害1回の訓練を行っている。火災訓練のうち1回は消防署立ち合いのもとで実施し、他の1回は夜間を想定した訓練としている。水害対応の訓練は、ハザードマップで数10センチの浸水地域とされているため、2階への垂直避難を行う訓練としている。利用者の2階への避難が早く、障がい者は警報ベルに敏感なことが把握できたため、それを前提として地域の方々にどのような協力をいただくのが良いのかを検討する必要があるとしている。	発災時には、連絡網で事業所代表や管理者、職員地域の協力者に連絡が行き渡るようになっているが、実際に機能する状態になっているかを確認し、併せて災害時における法人他事業所との連携を再点検することを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の運営会議や法人の勉強会において尊厳の意味を話し合い、サービスの向上に努めています。	利用者の尊厳に配慮した介助について、法人の勉強会で話し合い、常に心掛けながら対応をし馴れ合いの言葉遣いにならないよう気をつけている。排泄時に失敗した時には、優しく声を掛け周りの利用者につづかれないように配慮している。布パンツからリハビリパンツの移行には抵抗があるため、段階を追いながら進めるように努めている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 共生型グループホーム 白山の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活を共に過ごす中で利用者様の希望や想いを受け止め、すぐできることはその場で自己決定・実現するようにしています。時間が必要なことは職員間で話し合い、実現に向けて支援します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼夜逆転や身体不調、食事制限があるなど特別な制約がない限り、極力一人一人のペースを尊重し、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣介助や入浴時は利用者様に衣服を選んでいただいておりますが、季節感にそぐわない場合は助言をしています。清潔感・衣服を纏う喜びを感じられるよう支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備や配膳・洗い物・片付け等を利用者様に手伝っていただき、皆で行うことを意識しています。また、おやつ作りも一緒に行っています。	朝食、昼食は、職員が2週間分の献立を立て、利用者は下ごしらえを手伝っている。メニューは、利用者の好みに合わせたものや、畑の野菜を利用して提供している。5月から10月までのマルシェの開催や、年2回開催の「居酒屋」では、おいたり、焼きそば、唐揚げなどの提供があり、利用者は楽しみにしている。行事食として敬老会やクリスマス会などには特別メニューを計画し、「食」を楽しむための場が設けられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者様の好みや体調に応じて提供しています。月1回体重測定を行い増減に注意しています。水分量は毎日記録し不足がみられる場合は、個々に応じた工夫を行い(トロミをつける・甘味をつける等)少しでも摂れるように支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前は嚥下体操を行っています。食後は口腔ケアを見守り、声掛け、一部介助にて行い口腔衛生と残存機能の維持に努めています。		



令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 共生型グループホーム 白山の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、時間ごとに声掛け・誘導を行い概ねトイレで排泄ができています。	排泄チェック表を基に一人一人のパターンを把握し、誘導しながらトイレでの自力排泄に努めている。入居のころは尿臭のあった人が尿臭もなくなり、排泄や清潔面で改善が見られている。オムツの使用を避け、現状を維持できるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬状況・運動不足・水分不足が便秘につながりやすいため一人一人にあった支援をしています。天気の良い日は、散歩等を行ったり、食物繊維が摂れるよう調理にも気を付けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安にしていますが、ご希望がある場合は柔軟に対応しています。また、様々な入浴剤を準備し楽しんで頂いています。マットは感染症対策の為、その都度交換しています。	週2、3回の入浴を基本としている。入浴を嫌がる人には、日を変更して柔軟に対応している。現在異性介助を嫌がる人はいない。利用者は入浴剤を好み、入浴は職員と一対一になれる時間として、会話を楽しんだり、歌を歌ったりして、良いひと時を過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣をできるだけ尊重し、自由に休憩を取って頂いています。但し、昼夜逆転にならないよう、日中のレクリエーションや公文学習などを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がすぐに確認できるようにファイルを作成し服薬内容の理解につとめています。また、利用者様の服薬に変更があった場合は、しばらく様子観察を強化し、変化を見逃さないように注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や希望に沿い、草取り、花の水やり、畑作り、おやつ作り、モップ掛け等を行って頂いています。また、居酒屋・クリスマス会では、お酒が飲みたいとの事で提供し楽しみが持てるよう支援しています。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 共生型グループホーム 白山の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でしたが、お花見や田んぼアート、紅葉狩りと季節ごとにドライブをする事ができました。四季の変化を感じられるよう支援しています。ご家族様と出かけることができた利用者様もいましたので、これから増えるかと思っています。	高齢者の方は平日に、障がいの方は日曜日に車2台で全員が出かけている。お花見や田んぼアート、県民の森、運動公園などに、季節に合わせて桜や紅葉狩りに出かけている。外出を喜び、日々あまり話さない人も出掛けた事で話が弾んだり、衣服にも気を使い、自分で選んだものを着て行く人も多い。今後、リラックス効果のある、アロマセラピーを取り入れる事も検討している。	外出支援だけでなく、アロマセラピー等を日常的に体験していく事で利用者の方々にとってどのような効果があるかについて、具体的に検討されることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針として現金の所持はご遠慮いただいています。必要なもの・欲しい物は立替購入という方式を取り入れています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙は自由にやり取りができます。書くことが困難な方にはご本人の了承を得て代筆を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内外には観葉植物や、花を置いて穏やかに過ごせるよう演出をしています。壁には利用者様の作品や季節の飾り付けをしています。ミニ図書館もあります。また、寒くなると薪ストーブの炎が利用者様を癒しています。	ホールは吹き抜けから明かりが差し込み、開放感が感じられる。夏はエアコン、冬は薪ストーブで適温管理している。食卓兼用のテーブルが3卓とソファがあり、掘ごたつのある4畳半の小上りから畑や岩手山を眺め、外気浴も楽しめる環境となっている。壁面には利用者と一緒に制作した“サルかに合戦の”貼り絵が飾られ、季節を感じ取れるようになっている。利用者は各自好きなところで自分の時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	岩手山を一望できる所に和室を設け、のんびり出来る空間を確保しています。また、天気の良い日はウッドデッキにでて、外気浴をしたり歌を歌ったり思い思いに過ごされています。窓からは季節の移ろいも感じています。室内にあるソファは語らいの場になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際にはできるだけ使い慣れた家具や、家族の写真など思い出のあるものを持参頂くようお話をし、安心できる空間づくりに努めています。	ガスストーブ、ベッド、エアコンが備え付けられ、窓は遮熱性の高いペアガラスになっている。家族写真、ドライブでのスナップ写真や思い出の物を飾り、居心地の良い居室を作っている。居室の入口には毛筆で書かれた名前の表札があり、利用者の目印となっている。	

令和 5 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 共生型グループホーム 白山の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレには手すりを設けています。 また、施設内はバリアフリーとし自由に往来ができるようになっています。		